



一般社団法人 電波産業会  
Association of Radio  
Industries and Businesses

No.1403 2024年5月20日

### 5月15日～6月15日は「情報通信月間」です

2024年度の情報通信月間は、「デジタルで暮らしを変える 世界を変える」をテーマに、情報通信の普及・振興を図ることを目的として実施されます。ARIBは、情報通信月間行事として「電波の日記念講演会（5月30日）」（Webにて申込受付中）、「周波数資源開発シンポジウム2024（7月5日）」（予定）を開催します。

#### ARIBの動き

### FoBTV 技術委員会の概要報告

#### 1. はじめに

FoBTV (Future of Broadcast Television) は、2011年、当時のNHK放送技術研究所長の久保田啓一氏がATSC会長のMark Richer氏らに働きかけ、組織されました。目的は、地上デジタルテレビジョン放送やネットワーク技術が急速に発展する中、地上波放送の将来について国際間の協力関係を構築することであり、翌年に開催されたNAB Show 2012でパネルディスカッションが行われスタートしました。

#### 2. FoBTV 技術委員会（於：NAB Show 2024）

4月17日（水）、ラスベガス・コンベンションセンターW227会議室においてハイブリッド形式で開催されました。出席団体は、ATSC（米・地上デジタルテレビジョン放送規格団体）、NAB（全米放送事業者協会）、DVB（欧・デジタルテレビジョン放送規格団体）、ARIB、NHK、ETRI（韓国電子通信研究院）、Sinclair（米シンクレア・ブロードキャスト・グループ）、NERC-DTV（上海デジタルテレビナショナルエンジニアリングリサーチセンター）、SBTVD-F（ブラジル・地上デジタルテレビジョン放送規格団体）/TV Globo、EBU（欧州放送連合）です。



FoBTV 技術委員会 全体の様子

各組織がそれぞれの最新状況について報告を行い、意見交換を実施しました。

(報告者とテーマは下記のとおり)

- (1) Lynn Claudy, Senior Vice President of Technology, NAB, North America  
-ATSC 3.0 Transition Update in the U.S.
- (2) Emily Dubs, Head of Technology, DVB, Europe  
-DVB Highlights
- (3) Ana Eliza, Head of Technology Regulatory, TV Globo, Brazil  
-TV3.0 BRAZILIAN FUTURE TV
- (4) ARIB : 中村章担当部長、ARIB  
- ACTIVITIES OF ARIB SINCE LAST MEETING - Broadcasting -
- (5) NHK : 神原浩平CL、NHK 技研 伝送システム研究部  
- Latest status of Advanced ISDB-T and activities of NHK STRL
- (6) Sung-Ik Park, Principal Researcher, ETRI, Korea  
- Korea Status & Report
- (7) Jefferey Pei, Executive Researcher, NERC-DTV, China  
- Public Media and Next Generation Broadcast Technologies Research Update
- (8) John Lawson, Executive Director, AWARN Alliance, United States  
- AWARN(Advanced Warning and Response Network)
- (9) Madeleine Noland, President, ATSC, North America  
- ATSC Update

報告の中では、米国におけるATSC3.0世帯カバー率が75%に達したこと、累計の受信機販売台数が1000万台を突破し、2027年には8600万台の普及を目指していること、ATSC3.0技術を番組放送のためだけではなくタワー（送信所）間データ通信や農業分野などで活用すべく、関連する団体や大学機関と実証実験を進めていることが紹介されました。その他、欧州からDVB-Iの規格化、取り組み状況等、SBTVD-F(ブラジル)からTV3.0のスケジュール等、NERC-DTV（中国）から中国の緊急情報放送の取り組み等が紹介されました。

### 3. 次回予定

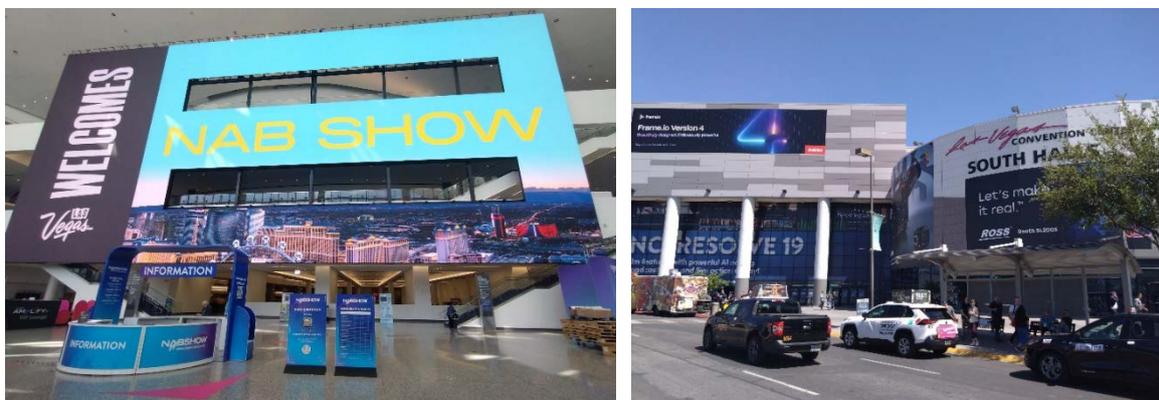
次回はIBC（International Broadcasting Convention）2024 の開催（9月13日～9月16日）に合わせて開催予定です。

## NAB Show 2024 の概要報告

### 1. はじめに

NAB（全米放送事業者協会）が主催する世界最大級の放送機器・メディアの祭典“NAB Show 2024”が4月13日（土）から17日（水）まで、ラスベガス・コンベンションセンターにおいて開催されました（機器展は14日から）。今回のNAB Showは、セントラル、サウス及びウエストの各ホールで開催され、約1300ブースを超える企業参加と、事前登録で約6万1千人規模の来場者が世界中から集まりました。54%は初めての参加であり、27%は米国外からの参加でした。

今年で 101 周年となる NAB Show のテーマは、昨年同様、「クリエイイト」、「コネクト」、「キャピタライズ」の 3 つで、テーマごとに展示していました。



ラスベガス・コンベンションセンター  
左：ウエストホールエントランスの巨大ディスプレイ 右：サウスホール

## 2. オープニング

4/15(月) 10 時からメインステージで、NAB Show のオープニングが開催されました。NAB 会長の LeGeyt 氏のあいさつでは、誤情報・偽情報は「非常に大きな問題」であり、放送各社が協力して「個々の企業の利益よりも民主主義を優先する」とのメッセージが伝えられました。その後、Furui Media (ラジオにおける AI 推進者・開発者) CEO の Daniel Anstandig 氏が自律型 AI 搭載人型ロボット Ameca とともに登場し、メディアにおける AI の役割に関する基調講演を行いました。講演は、Daniel 氏が質問し、Ameca が答えるという形も取り入れつつ行われ、AI は仕事泥棒や誤情報提供者ではなく、人間とチームを構成して作業を行えるものであるとの内容でした。



AI の役割に関する基調講演

## 3. 展示内容

メインピックアップは AI とクラウドであり、放送、コンテンツ制作、プロダクション、メディア、エンターテインメント、テクノロジーなどあらゆる側面における生成系 AI の活用も展示されていました。なお、日本企業の主な展示は以下のとおりです。

#### 【パナソニック】

放送局・スタジオでの運用を想定した IP ベースの撮影システムを展示しており、映像撮影の際には、顔認証の自動追尾、映像合成の際には AI を活用していました。

#### 【ソニー】

クラウド制作プラットフォームを用いて、ニュース、プロダクション、ライブ中継、AI 活用事例などを展示していました。また、バーチャルプロダクション制作として、月面着陸を用いた展示もありました。

#### 【日立国際電気】

SFN 運用の増加を想定した小型&省スペース水冷 10kW 送信機や空冷 3kW 送信機を展示するとともに、HDR などの高画質化に対応した Media over IP 構成の放送用フル 4 K カメラなども展示していました。

### 4. ブラジル SET 朝会合

NAB Show の期間に合わせ、ブラジル SET は LVCC 内の会議室を借りて展示会開始時間の 9 時まで SET:30 と称する朝会を例年開催していますが、今年は 4/14(日)~16(火)の 3 日間開催でした。

初日は、SET 会長の Carlos Fini 氏のオープニング挨拶後、ブラジル通信大臣の Juscelino Filho 氏の挨拶が行われ、2025 年から放送局が自主的に次世代地上放送 TV3.0 に移行できるよう関係団体と協力していることが述べられました。また、ONE Media 社長の Mark A.Aitken 氏からは、ATSC 3.0 がアメリカの人口カバー率で 75%を超えたこと、受信機の普及台数は放送開始から 5 年で累積 1600 万台であることが説明されました。

2 日目は、SET Director の Olimpio José Franco 氏によるオープニングあいさつの後、NHK 技術研究所チーフリードの 神原 浩平 氏 (DiBEG 次世代放送検討国対応 TF 主任) より、短時間視聴時代における AI 画像解析について基調講演が行われ、ダイジェスト動画を自動生成するツールの紹介などがありました。SET 会長の Fini 氏から「放送における AI 活用事例は近年増えているが、NHK による本事例は大変参考になり、講演に感謝する」旨の言葉があったほか、SET の Web サイトでもニューストピックとして取り上げられました。また、コンテンツ制作における AI の活用についてもセッションが行われました。

3 日目は、ANATEL (国家電気通信庁、周波数に関わるブラジルの規制庁) 会長の Carlos Baigorri 氏が講演を行い、次世代地上放送 TV3.0 用に 300MHz 帯域を調査中との説明がありました。

### 5. 次回予定

来年の NAB Show は、4 月 5 日~4 月 9 日にラスベガスで開催予定です。

## 第 317 回 業務委員会を開催

第 317 回業務委員会を開催しました。

1. 日 時： 2024年5月17日（金）15時30分～16時50分
2. 場所・形態： 当会第2、3会議室（Web会議併用）
3. 議 題：
  - (1) 第42回理事会の開催について
  - (2) NAB2024の概要について
  - (3) ミリ波普及推進ワークショップ 日本の産業技術最前線 Vol.5 開催報告について
  - (4) 西田幸博氏の日本ITU協会 総務大臣賞 受賞について
  - (5) 各社からのトピックス
  - (6) その他

### ARIB 内会合（5月20日～5月24日）予定

5月20日（月）：デジタル放送システム開発部会	HTMLTG	Web会議
5月21日（火）：デジタル放送システム開発部会	映像符号化方式作業班	Web会議併用
5月22日（水）：標準化部会	WP5D対応WG	Web会議
5月22日（水）：第330回技術委員会（放送分野）		Web会議併用
5月23日（木）：第205回ARIB電波利用セミナー 「放送技術政策の最新動向」		オンラインセミナー
5月24日（金）：スタジオ設備開発部会	次世代音響スタジオ規格TG	Web会議
5月24日（金）：標準化部会		Web会議

### 国際会合（5月20日～5月24日）予定

5月14日（火）～5月24日（金）：ITU-R WP5A（ジュネーブ）	Web会議併用
-------------------------------------	---------

### 総務省などからのお知らせ

#### 第8回「インフラメンテナンス大賞」の募集の開始

【令和6年5月10日発表】

総務省は、国土交通省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省とともに「第8回インフラメンテナンス大賞」の募集を開始しています。インフラメンテナンス大賞は、日本国内の社会資本のメンテナンス（以下「インフラメンテナンス」という。）に係る優れた取組や技術開発を表彰するものです。表彰により、好事例として広く紹介することで、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的として実施するものです。

総務大臣賞については、

- (1) 総務省が所管する分野（電気通信事業、放送事業、郵便事業）のインフラメンテナンスにおける優れた取組
- (2) インフラ全般（総務省が所管する分野のインフラに限らず）に係るメンテナンスのうち、情報通信技術の優れた活用がなされている取組

が表彰対象になり、令和6年5月10日（金）から同年7月12日（金）までの間、募集しています。

詳細については [【令和6年5月10日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

**無線局の電子免許状等の導入等に係る関係省令等の改正案に対する意見募集**  
**【令和6年5月14日発表】**

総務省は、電子免許状等の導入等に係る制度整備を行うため、電子免許状等に係る備付け・掲示の方法、電子免許状等を希望する場合の手續及び電子免許状等を訂正・返納する場合の手續等を定める「電波法施行規則等の一部を改正する省令案」等を作成しました。当該制度改正案に対して令和6年5月15日（水）から同年6月13日（木）までの間、意見募集を行っています。

この電子免許状等の導入により、より速やか・確実に免許状等の処分通知等の交付を受けることができるようになるなど、通知等の発送・受取事務や保管・管理業務等について、申請者・免許人等及び総務省の双方の業務のさらなる迅速化や効率化、コストの削減等が実現されます。

詳細については [【令和6年5月14日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
<https://www.arib.or.jp> E-mail [arib\\_news@arib.or.jp](mailto:arib_news@arib.or.jp)